

(3) 統 合 保 育

障害のある子どもは社会の一員として自分らしく生きてゆくために、適切な保護と治療と保育・教育を受ける権利をもっています。

保育所における統合保育は、障害のない子どもと障害のある子どもが交流しあい、ともに生活する中で、お互いに理解を深め、育ちあうことをめざしています。

そのためには、保護者との協力の下に、スーパーバイザー、療育機関等の指導を受けながら連携を深め、すべての職員が統合保育への共通理解をもって、保育を進めていくことが重要です。

人権保育の視点

- ・ 障害のある子どものありのままの姿を、子ども同士が認め合えるような関係をつくる。
- ・ 子ども一人ひとりの障害について理解し、違いを認め障害を個性としてとらえるようにする。
- ・ 保護者の思いを受け入れ、信頼関係を築く。

具体的な対応

- ・ 一人ひとりの子どもの発達や障害の状態に応じた保育ができるようにし、柔軟性をもって保育を進めていく。
- ・ 障害のある子どもの求めや気持ちを確かめるなど、お互いの気持ちを尊重して援助する関係を育てる。
- ・ 障害のある子の安定的な居場所をつくる。
- ・ どの保護者も、お互いに理解しあい仲間として育ち合い、ありのままを認め合える関係をつくる。

保育の事例

障害のある子の指導計画については、クラスの子どもたちがどうかかわって成長していくか、見通しがつきにくいものがあります。本児については、入所当初(3歳児)はクラスで落ち着きなく歩き回って過ごすことが多かったのですが、次第に友だちとかかわって遊ぶ姿や遊びを楽しむ姿が見られるようになってきました。そこで、友だちとのかかわりを中心に年間指導計画をたてました。

4歳児 自閉症 保育歴 1年

目 標	子ども	友だちと一緒に、遊んだり過ごすことを楽しむ。
	クラス	いろいろな友だちがいることを知り、認めながら共に楽しく過ごす。
	前 期	後 期
子 ど も の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れる。 ・自分の好きなものでじっくり遊ぶ。 ・友だちのしていることに興味があり、遊びに入ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなものでじっくり遊ぶ。 ・友だちと一緒に、楽しく遊んだり生活する。
援 助 ・ 配 慮	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の欲求をできるだけ満たしながら、いけないことは伝えていく。 ・友だちとの関係の中で本児の気持ちを受けとめるようにする。 ・本児が保育者と会話を楽しめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の欲求をできるだけ満たしながら、いけないことは伝えていく。 ・友だちとの関係の中で本児の気持ちを受けとめるようにする。 ・会話を楽しみながら友だちとの仲介をしていく。
ク ラ ス の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ・本児が面白いことをしている時は一緒にかかわる時もあるが、少し異質なものを感じているので、遊びの輪の中に入れてあげなかったり、意地悪をすることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の弱い部分を少しは理解し、クラスの他の子たちもみなそれぞれ弱い部分があることを認識していく。また反対に良い部分、得意なもの等を認めていく。 ・クラスの一員として共に楽しく過ごす。 ・いろいろな友だちがいることを知る。 ・自分も友だちも大切にしようとする
援 助 ・ 配 慮	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の気持ちを代弁して伝えたり、仲介しながら少しでもかかわって遊ぶ機会が持てるようにしていく。 ・本児も他の子も楽しめる遊びや活動を工夫・仲介して一緒に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の弱い部分を伝えるようにし、他の子もそれぞれ弱い部分があることを認識できるような働きかけをする(合わせて良い部分、得意なもの等も)。 ・本児も他の子も楽しめる遊びや活動を工夫・仲介して一緒に遊ぶ。

保育所では、障害のある子をごく自然に受け入れて、子どもたちは一緒に遊んだり生活したりしています。 ちゃん（4歳児・ 症候群・伝い歩き）を温かく受け入れていこうとする保育者たちの気持ちと姿勢が子どもたちに伝わっていきます。

絵本を見ている ちゃんのまわりに自然に寄ってきている姿がみられます。

ちゃんはまわりの子を意識しています。



ちゃんの様子を見て絵本をめくってあげています。やさしい気持ちが芽生えていく様子うかがえます。

保育士のそばでみんなと一緒に給食を食べています。他の子も自然に受け入れています。



保護者とのかかわり

障害のある子どもの保育にあたっては、保護者の理解と協力を得、家庭との連携を密にしていけることが大切です。それとともに、どの保護者も、仲間としての育ちを喜びとして共有できるような環境作りに努めることが、重要です。

4歳児 脳性麻痺 車椅子

4月	入園式後	入園式後、他児より長く時間をとり、装具の扱い方、子どもの様子など細かく話をする。
	登降園時	毎日のように登園時、降園時に本児の様子を話し合い、情報のやりとりをしていった。
5月	おたより帳等	自分の気持ちや思いをいろいろ書いてくれ、また装具に不慣れな担任に対し、付け方が悪かった日は翌日に知らせてくれたり工夫してやりやすいように協力してくれる。 本児が園に慣れ、クラスのなかに溶け込んで遊んでいる姿を書いたり直接話すことにより、「気にかけてくれてうれしい。」「先生のこと大好きみたい。」と話してきてくれる。
	他児の親	本児がクラスにいるのに先生一人なんて... うちの子はちゃんとみてもらっているのかしら... という親が出てきた。
6月	保育参観 クラス懇談会	なるべく親同士が話し合えるように気を配った。 母は「身体は障害者でも・・・先生やクラスの皆さんに迷惑をかけると思うけど、よろしくお願いします。」と話してくれ、他児の親も真剣に聞いてくれた。 母に対し、「昨日よかったね。きちんと話してもらえたし、涙出そうだった。」と話しかけると「うちはうちだし、言いたいこと言えてよかった。」とにこやか。
	本の紹介	障害についての本をクラスに置いてみたいことを、母に告げると、「是非、置いて。私だってそんな本、なかなか買えんし。」と言ってくれる。

(平成16年度 中堅 ・ 統合保育研修報告書 第三グループより一部抜粋)